

(司会：菅原愛和 N233 コメントター：佐野信子先生)	岸 笙子 スポ・ツウエルネス学科 大石ゼミ 〈個人発表〉 13:45-14:05	『タッチラグビー選手の困難な状況時の劣等感について —自己肯定感と Sense of Coherence に注目して—』 本研究は、タッチラグビー選手の困難な状況時の劣等感の程度を競技レベル別に明らかにすることを目的とした。また、自らの存在意義を積極的に評価できる感情である自己肯定感とストレス対処能力である Sense of Coherence に注目し、競技レベル別に分析を行った。結果については、分科会発表時に示す。
	水越 香織 スポ・ツウエルネス学科 大石ゼミ 〈個人発表〉 14:05-14:25	『大学生陸上競技選手における不合理な信念とレジリエンスが競技レベルに及ぼす影響』 本研究は、大学陸上競技選手の不合理な信念とレジリエンスが競技レベルに及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。まず対象者を競技レベルから2群に分け、各群の不合理な信念とレジリエンスをそれぞれ調査した。さらに、競技レベルを目的変数、不合理な信念とレジリエンスを従属変数とし重回帰分析を行った。結果については分科会発表時に示す。
	福田 涼介グループ スポ・ツウエルネス学科 沼澤ゼミ 沼澤秀雄、福田涼介、川田拓巳、田口晃基、筒井大史、藤原康平、下地利輝、眞田勇樹、瀧澤諒、庄子瑠芳、真城貴、水田周佑、金川真理子 〈団体発表 13名〉 14:25-14:45	『e スポーツは日本のスポーツを変えるか』 「e スポーツは日本のスポーツを変える」をテーマに、 ・スポーツとは何なのか(e スポーツを含め) ・e スポーツの定義 ・e スポーツの種類 ・e スポーツ協会 ・日本における e スポーツ ・海外の e スポーツ ・e スポーツを楽しむためのマシン ・e スポーツによる身体への影響以上の事柄について発表します。
N431 4号館3階 【プレシンポジウム】 福祉学科 卒業生 堤彩 コミュニティ政策学科 卒業生 福田祥之 ほか コーディネーター：大塚賀政昭 〈団体発表 4名予定〉 14:50-15:30	『コミ福における福祉教育を問う —卒業生の実習・インターンシップにおける学びの振り返りを通して—』 今回のシンポジウムは、コミ福の教育課程で展開される実習・インターンシップといった現場体験型学習における学びをテーマとしました。多様な分野で活躍するコミ福卒業生に、現場での学びが、卒業後のキャリアにどのような影響を与えたか、そして、現在向き合う現場の課題とどのように結びついているかといったことについて伺うことで、参加者とともにコミ福における福祉教育について考えたいと思っています。	



コミュニティ福祉学会“まなびあい” 第10回年次記念大会

2017.11.11. Sat.

13:00-19:00

(12:30 受付開始)

プログラム

■総会・第3回研究実践奨励賞授賞式

13:00~13:30 4号館3階 N431

■分科会

13:45~14:45 2号館3階
N231,N232,N233

■プレシンポジウム

14:50~15:30 4号館3階 N431

■シンポジウム

15:30~17:30 4号館3階 N431

■懇親会

17:45~19:00 こかげ

■会場案内図

N231・N232・N233
: 2号館3階

<分科会> 13:45~14:45

N431 (4号館3階)へは、階段なしでそのままお進みいただけます。

N431 : 4号館3階

<総会・授賞式>

13:00~13:30

<プレシンポジウム>

14:50~15:30

<シンポジウム>

15:30~17:30

JR 武蔵野線 新座駅方面 ←



こかげ : 4号館1階

<懇親会>
17:45~19:00

↑ : 入口

東武東上線 志木駅方面

正門

『コミュニティ福祉に今問われていること』

—過去を知り、未来を拓く—

■大会趣意

今回の大会は、第 10 回目の記念大会となる為、シンポジウムでは「コミュニティ福祉に今問われていること」と題して、この節目の年に改めてコミュニティ福祉学部設立当時の構想に込められた理念を振り返り、学部次のステージのあり方を探ることを目指しています。シンポジストには、学部創設に深く関わった初代学部長の関正勝名誉教授、新学部設置準備室長として学部の基礎を作った福山清蔵名誉教授、大学院の申請および 2 学科体制の構築に関わった坂田周一名誉教授、スポーツ領域から学部創設時メンバーとして沼澤秀雄教授にお越しいただきます。分科会では、自由演題発表として、大会テーマにとらわれず、学生、卒業生、教員の皆さんが日ごろ研究、調査しているテーマの発表を行います。懇親会は、学生、卒業生、教員など様々な立場の方が分け隔てなくお互いに語りあい、“まなびあい”が「現場と大学の架け橋」の役割となることを期待しています。コミ福の輪を広げる、きっかけになれば幸いです。

■プログラム

時間	内容	会場
12:30~	受付開始	4号館3階 N431 前
13:00 ~13:30	総会 第 3 回研究実践奨励賞受賞式 (学会誌『まなびあい』第 9 号掲載作品から選出されたものです。)	4号館3階 N431
13:45 ~14:45	分科会 自由演題発表 9 件が各会場にて行われます。各発表の詳細は、右頁からの分科会発表概要をご参照ください。	2号館3階 N231 N232 N233
14:50 ~15:30	プレシンポジウム【シンポジスト:卒業生】 『コミ福における福祉教育を問う —卒業生の実習・インターンシップにおける学びの振り返りを通して—』	4号館3階 N431
15:30 ~17:30	シンポジウム 【司会:鍛冶智子 コーディネーター:三本松政之】 「コミュニティ福祉に今問われていること—過去を知り、未来を拓く—」 コミ福の学部創設に深く関わってこられた先生方に、創設から現在に至るまでの経験を織り交ぜ、大会テーマについて語っていただきます。 ■シンポジスト■ 関 正勝 先生、福山清蔵 先生 坂田周一 先生、沼澤秀雄 先生	4号館3階 N431
17:45 ~19:00	懇親会 学びあいの場であると同時に、卒業生の同窓会としての要素も兼ね、学生と卒業生、教員の交流の場でもあります。“まなびあい”が、現場と大学の架け橋となることを願っています。 ■参加費■ 学生・院生:無料 卒業生・一般:1,000 円 教員:2,000 円	4号館1階 カフェテリア こかげ

■運営委員会からのお知らせ

コミュニティ福祉学会“まなびあい”運営委員会では、運営委員として、一緒に活動して下さる方を募集しています。
・年 1 回の“まなびあい”年次大会(11 月開催)などに向け、隔月 1 回程度で運営委員会を行っています。
・委員は、学生・卒業生・先生から構成されており、様々な方と知り合い、交流できる機会があります。
・やってみよう企画を、実現できる場にもなります。
関心のある方は、事務局(担当:大野)までお気軽にお問い合わせください。
<コミュニティ福祉学会事務局> Tel 048-471-7308(月~金 9:00~15:00) Mail: cchs@rikkyo.ac.jp

■分科会発表概要 (各発表 15 分、質疑応答 5 分程度を予定しています。)

会場	発表者・所属 (発表形式) 時間	発表タイトル・概要
(司会:竹内悟 N231 2号館3階 コメントーター: 藤井敦史先生)	加藤 千人 コミュニティ政策学科 原田峻ゼミ I (個人発表) 13:45-14:05	『もし、高卒として就職活動をするようになったら』 高卒の就労には様々な規制があります。例えば、1 人 1 社しか受けられない。面接は 1 回だけ。面接で「尊敬している人は誰？」と聞いてはいけません。など、時代錯誤な状況が政策として推奨されている。この前提にあるのが、新高卒は未成年なので保護する対象という捉え方だ。しかし、2020 年に成人年齢が 18 歳に引き下げられることが予想されている。それ以降、どうなるのだろうか。
	田中 幸グループ コミュニティ政策学科 原田峻ゼミ II 新井彩佑未、有坂瑞季、 今井美弥、金子晴香、 木下礼子、澤詩織、 神宮麻美、新名南、 杉本雅文、高橋ゆみる、 田中幸、中村早希、 藤原佑夏、林上潔 (団体発表 14 名) 14:05-14:25	『労働問題の多様な実態と就労支援—当事者団体・支援団体へのインタビュー調査から—』 私たちのゼミでは、「労働問題」というテーマのもと質的調査を行っている。今回はその活動について発表する。具体的には、「労働問題」について、①若者・困窮者等の就労支援、②出所者、非行少年等の就労支援、③女性と労働、就労支援、④被災地の労働、就労支援という 4 つの観点からそれぞれインタビュー調査を行い、分析したことについて報告する。
	中原 莉乃グループ コミュニティ政策学科 熊上ゼミ 中原莉乃、渡邊励央、 奥村百花、松本涼 (団体発表 4 名) 14:25-14:45	『子どもたちに寄り添う支援とは—ピアサポーター活動を通して—』 私達熊上ゼミ生は新座市教育委員会および新座市東北小学校のご協力をいただき、各教室に週 1 度配置され、行動面に学習面に問題がある子どもへのサポートとして、ピアサポート活動というものを行わせていただいています。様々なバックグラウンドのある子ども達に対し、一人一人に寄り添いというアプローチをしたら良いのかを毎回ゼミで議論し、生徒との距離を縮めることに努めてきました。さらに特別支援教育や発達障害のテキストを読み知識を深めたり、LD 体験を行ったりしながら、より良い支援を行う為に日々考え学習してきました。その学習の成果をこの機会に報告させていただきます。
(司会:江村拓哉 N232 2号館3階 コメントーター: 長倉真寿美先生)	渡沼 太一グループ 福祉学科 大山ゼミ 渡沼太一、泉田歩聖、 藤本竜成、高野由梨、 百瀬早紀、古川愛水、 西野恵理香、鈴木賢太 (団体発表 8 名) 13:45-14:05	『人権の観点から考える開放病棟と閉鎖病棟』 私たちは精神保健福祉士を目指すために、精神科医療機関で実習を行った。実習の報告を行っていく中で、ゼミのメンバー間で開放処遇と閉鎖処遇の認識に相違があることに気が付いた。そこで、この実習での学びをもとに、自由権の観点から、開放病棟と閉鎖病棟それぞれの存在意義について検討する。そのうえで開放病棟派と閉鎖病棟派に分かれて、事例を用いながらディベート形式で考察する。
	櫻井 真衣グループ 福祉学科 富田クラス 櫻井真衣、細井香菜、 堀内茜里、五月女素己、 秀村聡美 (団体発表 5 名) 14:05-14:25	『社会福祉実習から考える「障害支援」と「障害者支援」 —“その人らしさ”と“地域生活”の在り方—』 5 人が異なる実習先、視点を持って、障害領域の社会福祉士実習を行い、様々な学びを得た。その中から、共通する課題である「障害支援と障害者支援」つまり、障害ゆえの他者等との障壁(障害)を支援すれば良いのか、それとも「障害者」という人を支援すれば良いのかを議論する。また、私たちと同様に障害者が尊重されて地域の中で暮らしていくには、どのような仕組みが必要かを検討し発表する。
	佐藤 碧グループ 福祉学科 岡クラス 笹崎みな、小清水香織、 佐藤碧、吉田早織、 須永百花、西山晃平、 飯野一輝 (団体発表 7 名) 14:25-14:45	『「平等な関わり」とは何か—自己肯定感の観点から—』 虐待の連鎖をとめるためには、子どもたちが安心して満たされる経験を積み重ね、繋いでいくことが大切だと考える。今回私達は「満たされた状態=自己肯定感の充足」という視点から、施設の集団生活の中で子どもたちが満たされるためには、適切な距離感で、平等に接することが求められると考えた。児童・女性福祉領域の社会福祉士実習においては、約束により安心を求めようとする子ども、手がかかる子ども、甘えてくる子ども、強い拒絶を示す子どもなど全員に平等に関わるにはどうしたらよいのかと試行錯誤する日々であった。施設で生活する子どもの自己肯定感を伸ばすにはどういった対処があるか、そもそも自己肯定感とはなにか、ということを考えていく。